

日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会
人間と生物圏（MAB）計画分科会第4 2回会議

2019年2月6日 10:00～12:00

文部科学省 1 2 階国際課応接室

日本のBRの展望について ～教育・研修活動を中心に～

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設
水谷瑞希



ESDとは何か

ESD（持続可能な開発のための教育）は、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

- ESD（Education for Sustainable Development）
- ESDは、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において、『これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動』（日本ユネスコ国内委員会 2013）



ESDの概念

ESDは〇〇教育を持続可能な社会の観点からつなげて、総合的に取り組む教育で、SDGsの達成への貢献も期待されています。



(文部科学省HP)



(日本ユネスコ国内委員会教育小委員会)



ESDの歴史的経緯

日本はESD先進国であり、またESDはユネスコとも関わりが深い取り組みです。

- ESDの起源は80年代以降、とくにアジェンダ21(1992)を契機に国連が始めた人づくり (阿部 2012)
- 日本は「国連持続可能な開発のための教育の10年(DESD)」(2004-2015)の提唱国 (ヨハネスブルグ・サミット 2002)
- ユネスコがDESDの主導機関として指名
 - 国内ではユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ
- 「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」(2015-2019)
 - ESD国内実施計画 (2016)



ESDと環境教育

ESDの目標や学び方・教え方は環境教育と類似しており、それを価値観と行動の変革に繋げていくことを目指しています。

トビリシ勧告（1977）における環境教育の目標と目的

環境教育の目標

- 都市および農村地域における経済的、社会的、政治的、生態的依存についての明確な認識を持てること
- あらゆる人々に、環境の保護と改善に必要な知識、価値観、態度、コミットメントおよび技能を獲得する機会を与えること
- 個人、グループそして社会全体としての環境に対する行動の新しい行動パターンをつくりだすこと

環境教育の目的

1. 気づき：全体の環境問題とそれに関連する問題に関心をもたせ、敏感に反応するように援助すること
2. 知識：環境とそれに関連する問題について様々な経験や基礎的な理解を得ることができるよう援助すること
3. 態度：環境についての価値と感情を共に抱いて、環境保全と改善に積極的に参加する気持ちを起こさせるよう援助すること
4. 技能：環境問題を特定し、解決する技術が得られるよう援助すること（ベオグラード憲章(1975)の評価能力を含む）
5. 参加：環境問題の解決に向けての行動において、すべてのレベルで積極的に関わることができるような機会を提供すること

ESDで目指すこと（日本ユネスコ国内委員会）

ESDの目標

- 全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

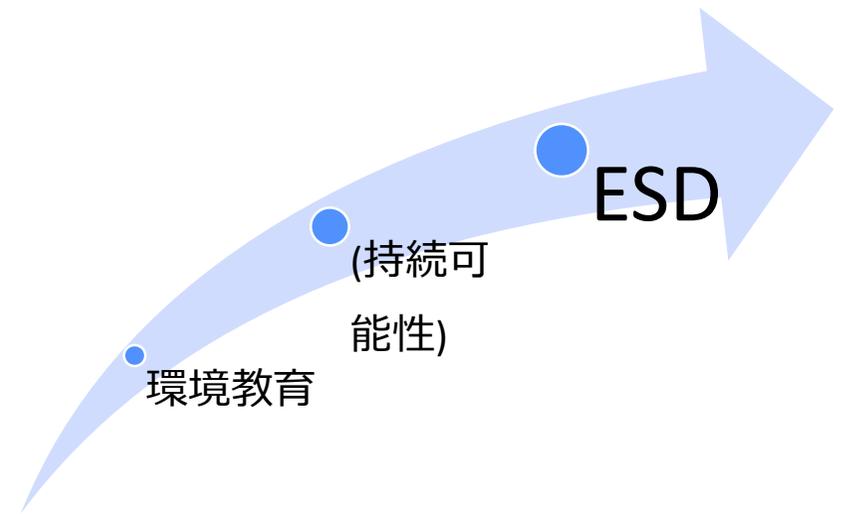
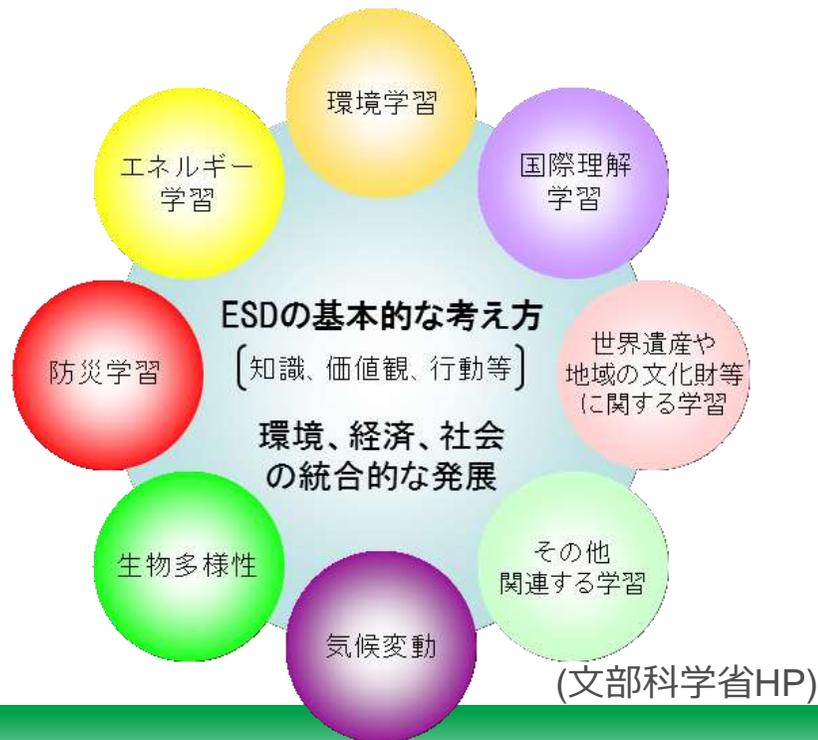
育みたい力

1. 持続可能な開発に関する価値観
（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
2. 体系的な思考力
（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
3. 代替案の思考力（批判力）
4. データや情報の分析能力
5. コミュニケーション能力
6. リーダーシップの向上

ESDと環境教育

ESDの目標や学び方・教え方は環境教育と類似しており、それを価値観と行動の変革に繋げていくことを目指しています。

- ESDは環境教育を含む、より幅広いテーマを扱う
- ESDの目標や学び方・教え方は、環境教育の延長線上にある



学習指導要領でのESD

改訂学習指導要領(平成29年3月)では「持続可能な社会の創り手」としてESDの理念が意識された記述がされています。

【前文（幼・小・中）】

- これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

【総則（小・中）】

第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

- 3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。



志賀高原ユネスコエコパークの概要

志賀高原BRは、志賀高原地域(上信越高原国立公園)を中心に2県5町村にまたがる地域に設定されています。



- 登録：1980年（昭和55年）、
拡張登録：2014年（平成26年）
- 人口：19,721人（移行地域,
2018年8月）
- 面積：【核心地域】691ha
（2.3%）、【緩衝地域】
17,569ha（58.0%）、【移行地
域】12,021ha（39.7%）、【全
体】30,281ha（100.0%）

志賀高原ユネスコエコパークの特徴

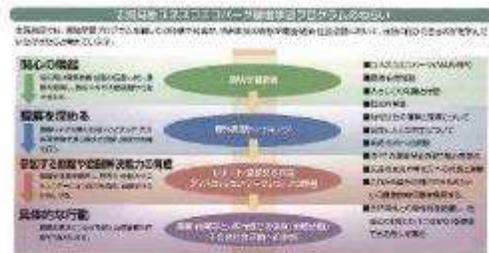
志賀高原の自然環境の特徴は、火山活動によって形成された地形と亜高山帯針葉樹林です。



- 標高 1200m～の溶岩台地
- 火山群 (志賀山, 鉢山, 草津白根山)
- 湖沼 (一沼, 琵琶池, 長池)
- 湿地群 (田ノ原湿原, 四十八池, 芳ヶ平湿地群)
- 標高1600m以上はコメツガ, オオシラビソ, クロベなどの亜高山帯針葉樹林・原生林

志賀高原BRにおけるESD①：環境学習プログラム

志賀高原観光協会・ガイド組合は、おもに各種学校を対象とした環境学習プログラムを提供しています。



- 2013年から実施
- 事前学習，野外学習，事後の振り返りという一連の流れを通じて，志賀高原BRを題材に自然と人間社会の共生について考える

持続可能な社会づくりの鍵は環境教育
ESD(持続可能な開発のための教育)

ESDとは

ESDは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の達成に貢献する。

ESDは、持続可能な開発目標の達成に貢献する。

ESDの考え方

ESDは、持続可能な開発目標の達成に貢献する。

ESDで育みたい力

ESDは、持続可能な開発目標の達成に貢献する。



志賀高原BRにおけるESD②：ユネスコスクール

志賀高原BRのすべての小中学校がユネスコスクールに加盟し、ESDの視点を持った学びに取り組んでいます。



- 山ノ内町
 - 東小学校，西小学校，南小学校，（北小学校）
 - 山ノ内中学校
- 高山村
 - 高山小学校
 - 高山中学校

ユネスコスクールとESD

ユネスコスクールは、ESDの推進拠点として位置づけられています。

- ASPnet(Associated Schools Project Network)
- ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を学校現場で実践するネットワーク。
- 世界182か国で11,500校以上の学校が参加。日本は1149校（2018年7月）が加盟し、加盟校数は世界最大。
- 長野県内では16校が加盟。
- ユネスコスクールの活動内容はESDと親和性が高く、日本ではESDの推進拠点として位置づけられている。

志賀高原BRにおけるESD③：志賀自然教育園

信州大学志賀自然教育園では、半世紀にわたって教員を目指す学生を対象とした自然教育に取り組んできました



- 信州大学教育学部の学生などを対象とする実習(1963~)
- “自然豊かな長野県で教員となる者は、自然についてよく知らなければならない”
- 全国の教員養成課程の中でも稀な、特色ある授業
- 社会教育主事講習
- 自然環境に関する調査研究

志賀高原BRにおけるESD④：ユネスコエコパークセミナー

地域の方とともに、ユネスコエコパークを活かした持続可能な地域の発展を考えるセミナーを開催しています



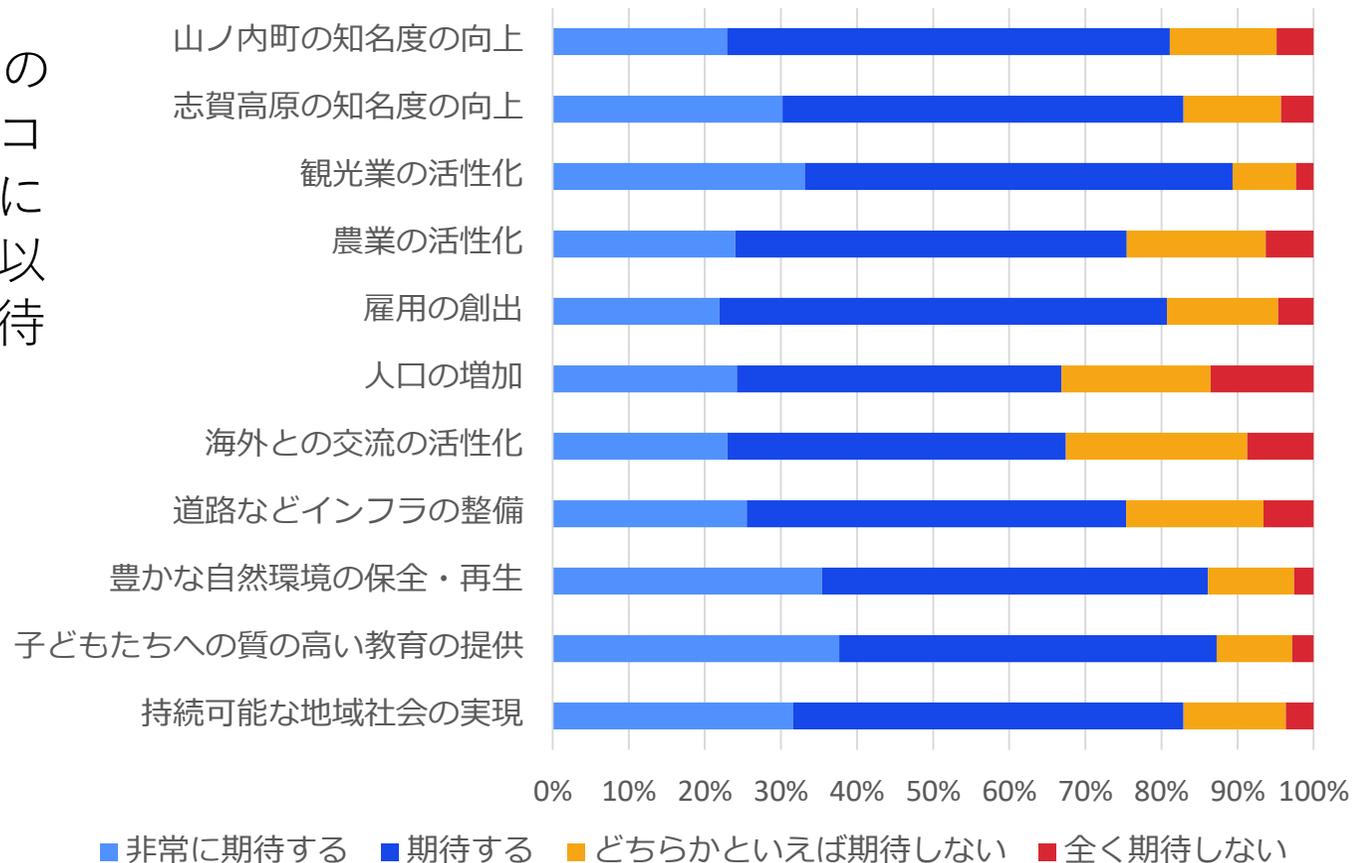
- BRの制度や地域の自然，文化，歴史，地域振興についての講演
- 地域資源探索のフィールドワーク，ワークショップ



山ノ内町民のエコパークに対する期待

ユネスコエコパーク登録に対して、地域の活性化に関わる様々な効果への強い期待が寄せられています。

- 平成26年に、山ノ内町の居住地域全体がユネスコエコパークの移行地域に拡張登録されました。以下の効果をどの程度期待していますか？

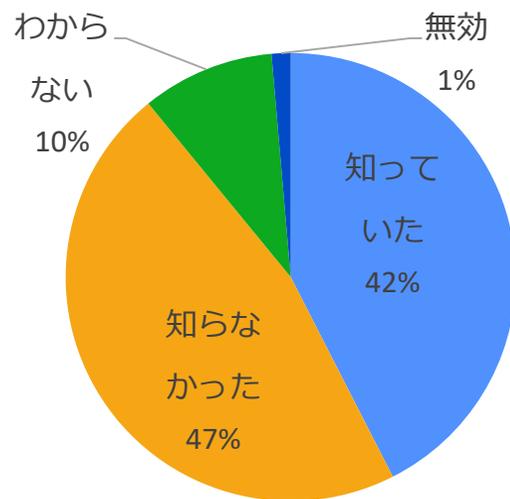


山ノ内町民のESDに対する期待

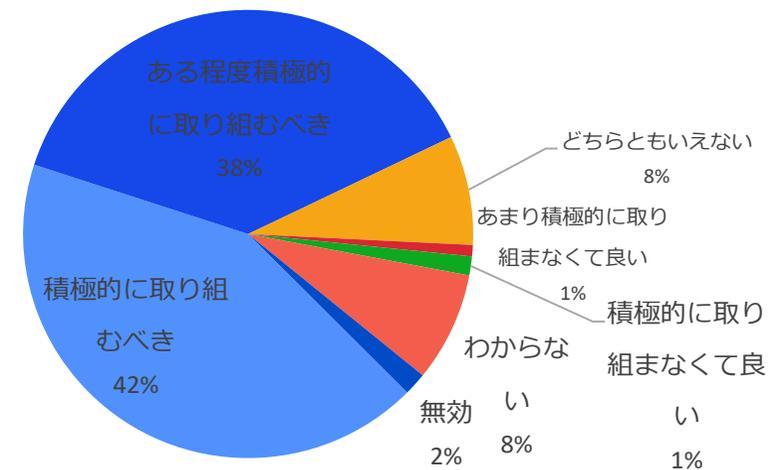
“ESD”そのものはまだ十分に知られてはいないものの、取り組みは8割の市民が肯定的に受け止めています。

- 町内の小中学校では、ESDの活動として果樹栽培や植樹活動を通して、環境学習や地域を知るための学習を行っていることをご存じでしたか？また、こうした取り組みについてどう思いますか。

(1) 活動の認知度



(2) 今後の取り組みへの意向



志賀高原BRにおけるESD

志賀高原BRはESDのための優れた資源を有しており，またESDによる「担い手づくり」に取り組んでいます。

ESDの地域資源

- 世界級の自然資源
- 地域社会（歴史・文化）
- 多様な主体，連携と協働

多様な人材育成

- 学校教育・次世代育成
- 生涯学習
- 教育者の育成

- BRブランドの確立
 - 多様な主体間での理念の共有
 - 理念に即した取り組みの強化

- ESDの学びを経験した世代の存在
 - BRの理念を理解
 - 必要な資質・能力



信州ESDコンソーシアム①

信州大学教育学部が中心となって設立した信州ESDコンソーシアムが、志賀高原BRでのESDの支援に取り組んできました。



ESD全国大会や他地域の研修会に教員を派遣し、交流と情報交換を実施



各学校に出向いて全教員を対象にESD研修会を実施



海外からの視察受け入れ、交流

信州ESDコンソーシアム②

信州大学教育学部が中心となって設立した信州ESDコンソーシアムが、志賀高原BRでのESDの支援に取り組んできました。



BRでのESDをテーマとした研修会
「ユネスコエコパークにおける交流と
協働によるESDの推進」を開催



子どもたちが日ごろの学びの成果を発表し、交流を深める
「成果発表&交流会」を開催（信州大学 松本キャンパス、
教育学部キャンパス）



他BRにおけるESD

他のBRでもそれぞれに、ESDとして捉えうる既存の取り組みがあり、またESD自体の普及や実践も進みつつあります。

- 只見BR：BRだけでなく、多様な文脈の中で地域に根ざしたESDを実践，全校ユネスコスクール。
- みなかみBR：地域の特徴を活かした「自然や地域に関する学習」への取り組み，全校ユネスコスクール登録を目指す。
- 白山BR：金沢工業大，金沢大などと地域との協働による域学連携の取り組み。

ESD for BR

ESDは、ユネスコエコパークに期待されている機能を実現する手段であり、エンジンです。

保全機能

- 生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



経済と社会の発展

- 自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取組が行われていること

8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



学術的研究支援

- 持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること

4 質の高い教育を
みんなに



日本のBRの可能性：教育・研修活動に着目して

● ESDは日本の強み

- ESDは持続可能性にかかわる諸課題を統合する**キーワード**
- BRの活動・運営と親和性が高く、**世界のモデル**にもなり得る
 - ← 世界のBRへの貢献，観光コンテンツ
- 発信に向けて普及推進とあわせて**ベンチマーク**の開発が必要

● BRでのESDを普及・深化する上での課題・鍵

- ① 「つなぐ」コーディネーターは必須 | BR協議会，学校にアプローチしやすい主体
- ② **学校での実践** | ネットワークを通じた交流，グッドプラクティスの共有，発信・実践機会の提供
- ③ **ESD支援組織との連携** | 地域ESD拠点（コンソーシアム等）
- ④ **BR間の連携** | 日本ジオパークネットワーク（教育WG），世界遺産（学習連絡協議会）の先行事例
- ⑤ **多様な主体との連携** | 社会教育・生涯教育，産業（観光・農業）
- ⑥ **交流・発信の促進** | 世界とのつながり